第 39 回　奈良県河川整備委員会　議事概要

１　日　時：平成 19 年 6 月 21 日　9:30～12:00
２　場　所：奈良市猿沢荘（３Ｆわかくさ）
３　出席者
　委員　８名：池淵周一、岩本廣美、谷幸三、中川一、
　　中島祐子、前迫ゆり、三野徹、和田萃（五十音順、敬称略）
　事務局４名：奈良県　徳元河川課長　ほか
４　議事要旨
　(1) 第 38 回奈良県河川整備委員会の議事概要の確認
　(2) 大和川水系河川整備計画（布留飛鳥圏域）の変更について
　　・第 38 回奈良県河川整備委員会の補足説明
　　・大和川水系河川整備計画（布留飛鳥圏域）変更原案（第２稿）
　(3) 吉野川の治水計画について
　(4) その他

５　議事内容（主な意見、回答）
5.1　第 38 回奈良県河川整備委員会の議事概要の確認
・特になし（委員了承）

5.2　大和川水系河川整備計画（布留飛鳥圏域）の変更について
　○第 38 回奈良県河川整備委員会の補足説明
　○大和川水系河川整備計画（布留飛鳥圏域）変更原案（第２稿）

・　飛鳥川上流の景観というのは非常に大事で、あまり大きく現状を変えないというか、自然に溶け合った整備のほうが望ましいので、その点に留意してほしい。

・　今回の河道内貯留施設は、先進的な事例として評価できる。

・　川づくり懇談会を実施し、地域の要望は聞いたが、住民はただ意見を言うだけではなく地域としてどうすればいいのだろうかということを同時に考えていく必要がある。

・　「動植物の状況」の文章では、外来種と在来種とが混在している。また、生物名についても、種レベルでの記載と単なるグループ名での記載が混在している。これらの記述の仕方などについて整理が必要。また、何を保全し、何を新しく創出するかということや、どういう自然環境をめざすかということが読み取りにくい。
「除草」のところも含め、意図がわかるような文章にした方が良いと思う。

・　工事後の維持管理が課題。特に、土砂の堆積は重要なことになると思うが、維持管理の仕方によっては安定した生態系をかなり攪乱してしまうようなことにもなり、費用もかかるため、予算化についても具体化してほしい。

・　計画原案の見直しは概ねこのような形で進めたいと思うがよいか。
→　各委員了解。

5.3　吉野川の治水計画について

・　整備箇所が多くあるが、整備期間30年間の予算は大丈夫なのか。
→　整備箇所の概算事業費と現在の吉野川の年間の事業費を比較することにより確認している。

・　上流で流下能力の向上を図るのは下流にとっては流量増をもたらす可能性がある。下流の国管理区間の進捗状況等との整合は。
→　国においても、今後30年間で伊勢湾台風規模の洪水に対応するための計画を検討中であり、30年後には、上流から下流まで同じ伊勢湾台風対応という形の整備ができると考えている。

・　上流へ行くほど過疎化が進んでいるが、流域の社会状況の変化の見通しはどのように考えているのか。
→　河川整備計画を節目、節目、５年ごとぐらいに見直すべきであると言われており、そういう各段階において、地域社会の状況等も見ながら、各地区への対応の見直しは考えていく。

・　計画にあたり、社会動態、人口動態をどのようにまちづくりや川づくりに連携させるのか議論していく必要がある。

・　家屋の移転工法を行う場合、その人達だけではなくて地域全体の理解を得ることも必要。機械的にやるのではなく、十分時間をかけて地域の人たち全体の説得もしてほしい。

・　吉野川は治水安全度の高い川と思っていたが、個々に見てみると、築堤、拡幅、移転等、大変なところという印象を持った。やり方としては、こういうやり方になるかと思う。ただ、家屋の移転については地域住民の方との縁を切らないように近くのところに移すとか、きめ細かな対応が今後、必要と感じる。

・　阿知賀地区で「拡幅によりかえって水位が上昇する」とはどういうことか。
→　再度確認する。

・　注目すべき種でも問題のあるものがあり、注目すべき種でないものでも重要な種がある。調査結果については、重要なものとそうでないもの、また在来種・外来種について整理する必要がある。

・　家屋の移転、あるいは嵩上げをしたところで、民間の方が後から工事をすること等に対し、指導は出来るのか。

→　災害の危険の多いところについて、家を建てること等を規制するための区域の指定ができるようになっている。移転するだけではなく、そういうソフト面の対策と一緒になってやっていくことが必要と考えている。詳細は次回報告する。

以上